

第5回 保育士未来セミナー 報告レポート

開催日: 2025 年 8 月 23 日(土)

会場: 風の丘めぐみ保育園 森棟

「子どもと関わる仕事って、どんな魅力があるのだろうか?」——進路選択を前に悩む高校生や大学生に向け、第5回保育士未来セミナーが開催されました。今年4月に入職した新人保育士3人による等身大の発表と、専門家・園長先生による解説と応援メッセージ。失敗や悩みも含めた率直な体験談は、保育士という仕事のリアルと奥深い魅力を伝える貴重な学びの場となりました。



第一部 | 1年目の保育士が語る「子どもとつくる保育士ライフストーリー」

第一部では、入職してまだ4か月の新人保育士3人が登壇しました。現場でのリアルな経験を交えながら、自身の学びや保育士という仕事の魅力を語りました。



西尾さん(0歳児クラス担任)



【予想を超えるあそび方】篇

西尾さんは、幼少期にいとこと遊んだ体験から「子どもの発想の面白さと可能性」に魅了され、保育士を志しました。

園で初めて任された挑戦は、手作り玩具の制作です。0歳児クラスで「積むことが好きな子」が多いと気づき、フェルト積み木を作ることになりました。材料や工程を計画しましたが、見通しが甘く、最終的に完成が1週間遅れてしまいます。そこで「計画には余白が必要」というリーダーの助言を受け、失敗から学ぶことの大切さを実感しました。

完成した玩具を手にした子どもたちは、大人の想像を超える遊び方を次々に見せてくれました。積みむ、舐める、振る、マジックテープで貼る……その自由な姿に「自分が保育士を目指した理由」を再確認できたと語りました。さらに制作を通して仲間との距離も縮まり、お互いをよく知ることができ、保育のチームワークが高まりました。

●みなさんに伝えたいこと

今、保育者として4か月を過ごしてきて、大きな喜び、達成感、少しの失敗などたくさん経験してきました。高校生大学生の皆さんにも、様々な経験を積み重ねて欲しい。様々な失敗も数えきれない経験はそのあとの人生につながるので、活かして欲しい。



出嶋さん(2歳児クラス担任)



【Hくんの気持ち】篇

出嶋さんは「年の離れたいとこたちの世話をした経験」から小学生の頃から保育士を夢見てきました。

クラスで印象的だったのは、体格が小さく、言葉で表現が難しかったHくんとの関わりです。言葉で気持ちを伝えることができない、Hくんは友だちに噛みつく行動が続き、止められなかった自分に落ち込む日々。そんな時、副主任の先生から「よく観察し、Hくんに何があって、どんな気持ちかよくみて寄り添うことが大切」と助

言を受けました。それまで“見張り役”のようにになっていた出嶋さんでしたが、少し距離を取り、Hくんの気持ちを理解しようと努めました。やがて、Hくんは徐々に自分の言葉で気持ちを伝えられるようになり、噛む行動は減っていきました。子どもたちは思っている以上に成長を見せてくれ、その成長を実感し、やりがいのある仕事だなと感じます。

●みなさんに伝えたいこと

高校生の皆さんは進路選択で迷っていると思います。保育者に興味がある方は、ボランティアに参加したり、本を読んだりして、子どもについてより深く知る機会をつくり、進路選択に役立ててほしいです。



澤井さん(1歳児クラス担任)



【Yちゃんの「やまのおんがくたい」】篇

澤井さんは、小学生時代に書いた弟の観察日記「宇宙人日記」を読み返したことが原点となりました。「子どもってこんなに面白いんだ」と感じ、その魅力を共有する仕事を選びました。

紹介いただいたのは、ギターを通じた子どもとのエピソードです。クラスで初めてギターを披露するにあたり、子どもたちが自然に興味を持てるように環境を整えたこと。中でもまだ言葉の少ないYちゃんはギターには触れなくても「山の音楽家」の絵本を指差し、何十回も「もう一回」とリクエストしたこと。指差しと声で伝える思いに応えて、お互いの好きなことで繋がりがあえたことは、「子どもの主体性と、自分の主体性が重なり合うときに生まれる喜び」であると実感した澤井さん。さらに園が

国の基準以上の人員を配置していることで、一人ひとりとじっくり関わる保育ができる、他の先生の配慮・チームワークにも感謝していました。

●皆さんに伝えたいこと

保育者を目指す、悩んでる皆さんへ。少しでも子どもたちと過ごす時間の尊さを伝えられたら嬉しいです。もし子どもが好き、と思ったら、「なんで好きなんだろう？」と深掘りしてみるといいかもしれません。



発表後には、矢藤誠慈郎さん(和洋女子大学)と安部雅昭さん(星槎学園)からコメントが寄せられました。

矢藤誠慈郎さん

和洋女子大学 人文学部 こども発達学科 教授



矢藤先生は、「西尾さんの経験から“計画は立てるが修正していくもの”という学びが伝わってきた。そんな試行錯誤が成長の糧」と評価。出嶋さんについては「噛む行動を“どう防ぐか”ではなく、その背景にある子どもの気持ちを理解しようとする姿勢が素晴らしい」と指摘しました。澤井さんの体験については「子どもが“やりたくなる”環境を整える工夫が印象

的。保育は子どもと大人の主体性が響き合う“共主体性”で成り立つ」とまとめました。

安部雅昭さん
星槎国際高等学校 副校長



安部先生は、「3 人のお話に園の雰囲気そのまま出ていた。失敗を受け入れる空気があるからこそ、新人も挑戦できる」と評価。西尾さんには「0 歳児の大変さを率直に楽しいと語ったことが印象的」、出嶋さんには「噛んでしまうことを善悪で捉えて指導しようとせず、その子の気持ちに寄り添っているところが素敵だと思いました」、澤井さん

には「子どもを“宇宙人”と表現する感性が魅力的。好きなことが活かして大人が楽しんでいる姿は子どもにも伝わる」と、それぞれコメントしました。



第二部 | 保育者を目指す皆様への応援メッセージ

第二部では、第一部の 3 人のお話を受け、登壇者のそれぞれの立場で、自由に「保育に対する想い」を語って頂きました。



保育士に必要な姿勢(矢藤誠慈郎さん)



矢藤さんは、「保育士にとって最も大切なのは子どもに興味を持つこと」と語りました。善悪を裁くのではなく、子どもの気持ちを受け取り一緒に考えるのが保育者の役割です。

さらに「赤ちゃんにも尊厳がある」という具体例として、オムツ替えの際の声かけや、フランスの看護師がまずお母さんではなく、赤ちゃん本人に話しかける文化を紹介

介。一人ひとりを尊重することが保育の根幹であると強調しました。

また、保育者は「すべての子どもの味方」であること。機嫌の悪い子や障害のある子も含めた子どもの味方であり続けること、子どもが「やりたくなる」環境を整えることが重要だと述べました。知識はネットで得られる時代だからこそ、体験や挑戦を通じて学ぶ姿勢が不可欠だと述べました。

また、保育職の処遇改善についても触れ、ここ10年で給与水準が30%上がり、国も保育人材の確保のため様々に財政的に力を入れていると説明。景気に左右されにくく、安定した職種であると紹介しました。

進路選択と生き甲斐(安部雅昭さん)



安部さんは、進路選択に悩む参加者に「Ikigai」の考えを紹介しました。①好きなこと、②得意なこと、③社会のニーズ、④収入、この4つが重なる部分が「生き甲斐」だと説明。もし皆さんが子どもが好きならば、保育士はその条件を満たしやすいかもしれません。

さらに「失敗を恐れなくてよい」ことを強調。保育は予期できない出来事が日常であり、間違いも成長の糧になる。小さな失敗を積み重ねることで少しずつチャレンジできるので、「来た波に乗りませんか？」とメッセージを投げかけました。また、子どもの味方になるとは、「共感的に理解しようとする」「評価しない」「肯定的に語る」の三つを提案。完璧である必要はなく、ドラえもんとのび太のように寄り添い合う関係で良いと例えました。

最後に、子どもへの愛情が自立につながることを、保育士は子どもにエネルギーを貯めるスペシャリストであり、子どもたちに尽くすことに幸せを感じ、子どもたちの笑顔をもたらえることに幸せを感じられることに醍醐味があると締め括りました。



進路選択と園の理念(風の丘めぐみ保育園園長 大野じゅんさん)



会場となった風の丘めぐみ保育園 園長の大野さんは、自身がファッション業界から保育へ転身した経験を紹介しました。「毎年同じことがなく、常に新しい挑戦がある。それが保育の魅力」と語りました。

また「寄り道してからでも保育士になれるし、逆に保育から別の仕事に進むこともできる。経験のすべてが保育に生きる」とこれから進路選びをする皆さんへエールを送りました。「人間の成長に関わる仕事はとてもクリエイティブで、人生をかけてもお釣りがくるほど奥深い」と、自身が感じる保育の魅力を伝えてくれました。

園の理念「風に乗る、森に暮らす」にも触れました。子どもを風にたとえ、保育者も保護者も大人はその風に乗せてもらう。森のように多様な存在が関わり合いながら育っていく環境を目指していると説明しました。

2018年に保育園・幼稚園の間にこのような「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」(10の姿)が育まれるようにという、私たちにとってのバイブルでもあります。保育の世界だけでなく、どんな仕事でも備わっていただいたいと思うことではないでしょうか？



「保育者は完璧である必要もないし、そんな人はいない。それぞれが自分の得意を持ち寄り、チームで力を合わせることでより豊かな保育ができる」と呼びかけました。

最後に、保育している中で出会った子どもたちの様々な表情を共有し、会を締めくくりました。

参加者アンケートのご案内

○本日、印象に残った内容はありますか？

- ・1年目の保育士さんの貴重なエピソードがとても印象に残りました。言語が通じないからこそ、表情を見て感じ取ってあげたりするのは大変だと思いますが、子供の成長にやりがいを感じていらっしゃるところに感銘を受けました。(高3 女子)
- ・保育のありかた、保育者のやりがいなど色々知れてよかったです。(高3 女子)
保育士にはいつでもなれる、保育士になったあとでも違う職務につける、というお話が印象に残りました。(高3 女子)
- ・自分が興味を持った事に真剣に向き合って保育士になったという話です。(高1 男子)
- ・アンテナを張って、この発信を受信することが大事だということが印象に残りました。子どもを理解して、より適切に、ニーズにあった支援や関わりに繋がるのだろうと感じました。(大学生)
- ・保育士は子供の善悪を判断するのではなく、支える存在で考え方が変わった充実した時間になりました。(高1 女子)
- ・0, 1 歳クラスだとまだ言葉で伝えられず噛んだりをやめれない子に対する正しい対応などとても大変なことが多いと思いました。(高3 女子)
- ・自分が望んだ仕事ではなくても、仕事を一生懸命やればその仕事が好きになると言うことを聞いて安心しました。(高1 女子)
- ・最後の園長先生のお話の寄り道しても保育士にはなれるという話がとても印象に残っています。私自身、保育士になりたい気持ちもあるけれど決めきれない気持ちもあるので凄くためになりました。(高2 女子)
- ・色々な仕事を経て保育士になる人や保育士の夢を持って保育士になる人など色々な人がいるんだと感じた。給料が上がってるのも意外だなと思った。(高1 男子)
- ・保育園の先生はやることがおおくて、とても大変だと聞いていたけれど、それをサポートしてくれる先生方、とても過ごしやすい環境づくり、とても素晴らしいと思いました。(高1 男子)
- ・園での普段の様子についてのお話を聞いた時、とくに子どもに興味が湧きました。(高1 女子)
- ・先輩保育士さんのお話と、お給料のお話です。(高2 女子)
- ・教育というのは、教育者が一方的に育てるのではなく、一緒に成長していくことだということ

が印象に残っています。(高2女子)

- ・保育士の仕事の内容がとてもわかりやすく理解が深まりました。意思表示がまだ難しい赤ちゃんに関わるというのは大変なのと同時に素晴らしいことだと思いました。(高1男子)
- ・保育者がほんとにやりがいを感じて仕事してるなと思った。(高3男子)
- ・お友達に言葉が伝えられなくて、噛み付いてしまう子供にどうやって寄り添ったのか、という発表が印象に残った。(高3女子)
- ・他の子に噛み付く子。(高1女子)
- ・保育士はいつになってもいいこと。(高1女子)
- ・保育士は大変でも面白さややりがいがあるということがとても印象に残った。(高1女子)
- ・子供達のいろんな表情が映った写真。(大学生)

結び: 保育者という仕事の日々の喜びや仕事選びの視点、さらにはキャリア選びの視点からも様々にお話を聞くことができた今回のセミナーは、これから進路を考える高校生・大学生にとって、「自分らしい挑戦をしていい」という勇気を与える時間になったのではないのでしょうか。

保育士未来セミナーは、今後も保育の現場から、保育の魅力、保育の専門性について多くの方に知っていただきたく活動してまいります。今後のご参加を心よりお待ちしております！





～次回予告～

10月25日(土)開催概要

日時： 2025 年 10 月 25 日(土)14:00～16:00

*** 終了後に希望者の方には保育園見学を実施予定しております。**

対象： 保育のお仕事に関心がある高校生、保護者、高校教員、大学生、現職保育者、その他

実施場所：MIWA 木場公園保育園(社会福祉法人みわの会)

東京都江東区木場 4 丁目 1 番 65 号